

主催：平成 20-22 年度科学研究費補助金・基盤研究 B「脳神経倫理学の理論的基礎の構築」 研究代表：廣野喜幸
課題番号：20320001 http://hps.c.u-tokyo.ac.jp/a_theoretical_foundation_of_neuroethics/index.php

シンポジウム

「社会脳」を考える

「社会性の脳科学と社会」

プログラム

(受付開始 12:45)

13:00-13:20

イントロダクション：「社会脳」と社会性の脳科学
—社会脳概念のインパクト—

石原 孝二 (東京大学)

13:20-13:55

日本ザルの社会的行動選択と脳機能

藤井 直敬 (理化学研究所)

13:55-14:30

自己と他者に関する発達認知神経科学

開 一夫 (東京大学)

(14:30-14:45 休憩)

14:45-15:20

社会的報酬の脳科学

定藤 規弘 (自然科学研究機構・生理学研究所)

15:20-15:55

道徳心理学と脳

河野 哲也 (立教大学)

15:55-16:30

ロボットにおける社会性の問題と研究

石黒 浩 (大阪大学/ATR)

(16:30-16:45 休憩)

16:45-18:15

総合討論

18:30-20:00

懇親会

(一般 6,000 円、学生 3,000 円、要申込)

日時

2009 年

7 月 25 日

(土曜日)

会場

東京大学

駒場 I

キャンパス

(京王井の頭線

駒場東大駅・東大口)

5 号館 2 階

525 室

参加費：無料

趣旨

近年、社会認知や社会行動に関する脳科学（神経科学）的な研究が盛んになりつつある。

「社会脳」(social brain) や「社会神経科学」(social neuroscience) という言葉もよく耳にするようになってきた。

これらの言葉は一体何を指しているのだろうか。

また、脳科学は人間の社会性の神経的基盤をどこまで解明することができるのだろうか。

そしてその成果は、社会性や道徳性に関するわれわれの捉え方にどのような影響を与えていくのだろうか。

本シンポジウムでは、脳科学、発達認知神経科学、ロボティクス、哲学・倫理学などの様々な領域で社会性に関わる

研究を進めている研究者が講演を行い、それぞれの研究の紹介を行うとともに、こうした問題に対する見解を述べていく。

引き続き行われる総合討論では、フロアの参加者も交えながら議論を展開していくことにしたい。

参加方法：会場準備の都合上、事前に下記までお申し込みください。(空席がある限り当日参加も可能です。)

〒153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1 東京大学大学院 総合文化研究科 科学史科学哲学研究室

石原孝二 Tel/Fax: 03-5454-6206 E-mail: cishi08<at>mail.ecc.u-tokyo.ac.jp (<at>を@に置き換えて下さい。)